

令和7年度 上宮太子高等学校 学校評価関係

1. 規定
2. 学校計画と学校評価
 - 2-1 建学の精神
 - 2-2 教育目標(めざす学校像)
 - 2-3 中期的目標
 - 2-4 本年度の重点目標・具体的な計画取り
組み・評価指標・自己評価
 - 2-5 授業評価アンケート及び保護者
アンケートの結果と分析
 - 2-6 学校評価の総括
 - 2-7 学校関係者評価

上宮太子高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

令和 4 年 6 月 24 日 改定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、教務部学校評価係を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価係は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第 7 条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
人数は 5 名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員
- (3) その他、必要に応じて学校が選出する委員

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。

4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。

5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。

6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第 7 条第 1 項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第 8 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第 9 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第 10 条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附 則

1 この規定は、平成 23 年 3 月 18 日から施行する。

2 第 5 条を、校務分掌の一部見直しにより令和 4 年 6 月 24 日に改訂する。

3 この改正規定は、令和 4 年 7 月 1 日より施行する。

令和7年度 上宮太子高等学校 学校計画と学校評価

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、高校生として生徒一人ひとりが、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と意思を持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探究心や自らの疑問を解決する能力としての智慧を養うことである。すなわち、まず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を発揮できることを示している。

2 教育目標（めざす学校像）

- ① 仏教精神の基づく幅広い人間教育をおこなう。
- ② 勉学精進による英才開発、育成をめざす。
- ③ 豊かな自然と歴史に包まれた教育環境の中で、バランスのとれた人格を養う。
- ④ 人を思いやり、人に愛され、また信頼され、社会に貢献できる人づくりをめざす。

3 中期的目標

- ① 礼節を重んじ、常識を身につけ、生きる力を養う。
- ② 細やかな指導により学力を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させる。
- ③ 各教科が授業力向上のための研究をおこなう。
- ④ 受験者数の安定的確保に向けての広報活動を展開する。
- ⑤ 健全かつ安定的な財務・経営をめざす。

4 学校の本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

(A:「顕著に成果があった」 B:「成果があった」 C:「あまり成果が出ていない」 D:「できていない」)

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
教務部	(1)教務システムの円滑な運用	(1)BLENDの円滑な運用	(1)運用している。	A	十分に活用できている。
	(2)行事の精査と更なる充実	(2)生徒募集に繋がる行事の精査	(2)昨年度並み。	C	大きな変更や問題はなかった。
	(3)事務所・総務との連携	(3)就業システムの円滑化	(3)昨年度並み。	C	大きな変更や問題はなかった。
	(4)教務内規の再検討	(4)観点別評価の再検討	(4)できていない。	D	次年度に評価基準を検討する。
	(5)不登校生徒に寄り添うための 単位認定の検討	(5)ICT機器を用いたオンライン 授業による単位認定の検討	(5)実施している。	A	今年度は追加で4名認定し、一定の成果を得られた。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
生徒指導部	【生徒指導】 (1)校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上 (2)生徒指導の推進と問題行動の予防強化 (3)道徳意識，規範意識の向上（頭髮服装検査強化） (4)生徒の愛校心向上 (5)生徒指導部会議の開催	【生徒指導】 (1)校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上のための取り組み (2)教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施 (3)身だしなみチェックを実施し、生徒心得遵守を促し「清楚で闊達」な生徒を育成する (4)生活委員会の活動を活性化	【生徒指導】 (1)生徒会を中心に生徒の手で取り組む必要がある。 (2)一律指導にはまだまだ課題が残る。 (3)女子のスカート、ソックスがまだまだ違反者が多い。 (4)まだまだ活動が乏しい。 (5)定期的に情報交換ができてきている。	B B B D A	【生徒指導】 (1)成果はあったが、教員主導ではなく生徒主導へ取り組みが必要。 (2)教員による一律指導には課題が残る。大阪私学生徒指導連盟の研修会に新任の先生の参加。 (3)式典の服装がまだまだ揃わない。特に女子のハイソックス着用で課題が残る。 (4)活動がほとんどできないまま、1年を終えた。次年度は担当者を立て、委員会活動の活性をはかりたい (5)定期的に会議を実施し情報の共有が出来た
	【生徒会】 (1)生徒会活動の活性化 (2)委員会活動の活性化 (3)広報活動 (4)クラブ活動の活性化	【生徒会】 (1)生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり(体育大会・上宮祭運営、規範意識の向上等) (2)委員会活動の活性化 (3)広報活動(入試説明会・オープンキャンパス・地域行事参加・リーフレットの作成) (4)クラブ生を主体とした学校の活性化	【生徒会】 (1)行事がメインになっているためその他の活動も増やしていきたい。 (2)なかなか定期的に活動ができていない。 (3)生徒主導の動きが確立できてきている。 (4)部活動所属生徒が増え活発になってきている。	B C A B	【生徒会】 (1)生徒会役員による行事運営は実施できたが、まだまだ主体性に欠けるところがあった。 (2)図書・保健委員は精力的な活動が見られたが、生活・放送委員は目立った活動が少なかった。 (3)入試説明会では生徒会役員が先頭に立った。なお、リーフレットの制作は「広報」が行った。 (4)「クラブ活動応援制度」実施後、活発に活動するクラブも増加した。
	【教育相談】 (1)教職員への啓発・発信 (2)スクールカウンセラーと教職員との連携 (3)教育相談室の活用 (4)不登校・配慮を要する生徒の把握と適宜の対応	【教育相談】 (1)研修会への参加、そして報告「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布 (2)カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催 (3)担任・学年・係を中心に取り組む (4)不登校・配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	【教育相談】 (1)研修後の資料作成に時間を要するためすぐに発信はできなかった。 (2)特に問題は生じなかった。 (3)その都度連携が取れた。 (4)情報交換、情報の共有はできている。	B A B A	【教育相談】 (1)研修会参加への参加後、報告をする場を設ける必要があった。 (2)顕著に成果があった。 (3)成果があった。 (4)不登校対策委員会を適時開催。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
進路指導部	(1)学習指導関係 国公立大ⅠⅠ 関関同立ⅠⅦ 産近甲龍50 以上合格を 目標	(1)目標到達のため、英数を中心に 基礎から3年間トータルでの 学習指導を展開	(1)なかなか成績伸長に繋 げる画期的な方策を見 いだせていない。	C	(1)産近甲龍は上回ったものの、国 公立、関関同立ともに目標に到達 できなかった。
	(2)スタディサプリの活用	(2)リメディアル教育の推進	(2)今後、新たに教科教員 への展開を予定。	B	(2)先生方の使用頻度において進 展があった。
	(3)ICT 教育関係 ・「iPad が動く学校」への挑戦	(3)生成 AI の教育活用を推進	(3)探究優先の中、想定通 りに進めていない。	D	(3)主任が探究を兼任し、全く進め られなかった。変更の必要性 あり。
	(4)探究関係 ・専門チームによる探究活動 推進	(4)産学連携、高大連携事業を推進	(4)専門チーム発足によ り、新しい取り組みを展 開中。	A	(4)探究への取り組みが昨年度と 大きく変わった。今後のさらな る発展にも大きく期待できる。
	(5)行事企画 ・進路意欲を向上させる取り組み ・生徒の非認知能力育成の 取り組み	(5)大学見学会、大学別ガイダンス GPS-Academic の実施	(5)他校視察なども含め、 取り組みの土台を固め ている。	B	(5)視察などを通して有用な知見 を持ち帰り、学校改革の土台と なる非認知能力育成の取り組 みをスタートさせている。
入試対策部	(1)入学者数確保に向けての広報 活動	(1)多くの受験生・保護者へアプロ ーチ 目標：入学者数 200 人以上 専願で最低 180 確保 ・上宮太子に足を運んでもらう ・塾・中学訪問は目的を持って年間 4 回実施する	(1)外部説明会での数は、 昨年を上回った。 ・オープンキャンパスに は、多くの方が来校され た。 ・7 月の塾対象説明会后、 すぐに中学に目安を届け た。早い段階で受験生を 確保。	A	(1)多くの先生方に外部説明会に 参加していただき、上宮太子の 魅力を、いろいろな角度から伝 えることができた。 ・過去最大の人数の保護者・生徒 に校内に足を運んでいただい た。 ・目的をしっかりと持って年間の訪 問をこなし、上宮太子の良さを をしっかりと伝えることができ た。
	(2)効果的な広報物を制作・活用	(2)効果的なパンフレット・リーフ レットの作成 ・中学に新入生の笑顔の写真を 持参	(2)昨年同様その都度必要 な 6 種類のリーフレッ トを作成。上宮祭チケ ットも 8 月から配布。 ・早い段階で 1 年生の様子 を伝えた。	A	(2)時期に応じて効果的なリーフ レットを配布することができ た。リーフレットやビデオなど が、元気で楽しそうな上宮太子 の生徒の良さをだせて、評判が 良かった。
	(3)情報の収集・共有化	(3)塾・中学では、在籍生徒の様子 を伝える ・校外で知り得た情報を先生方に 伝える	(3)成績、クラブ、日々の 様子を伝えた。 ・個々には伝えているが、 全体としては、4 月の職 員会議以降、情報を伝え ていない。	B	(3)在籍生徒の様子をきめ細やか に報告することで、塾・中学の 先生方に安心感を与えること ができた。 ・校内の先生方に対してのアナウ ンスが少なかった。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
国 語 科	(1)授業改革による生徒の読解力・表現力の向上	(1)1. アクティブラーニングを取り入れた授業の実施 2. スタディーサプリの積極的な活用	(1)少しずつグループワークや主体的な行動を促す授業を取り入れているが、結果ははっきりと表れていない。	B	(1)グループワークの実践により、自分事としてとらえる習慣が生まれつつある。
	(2)各学年での学習指導内容の研究	(1)1. 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 2. ロイロノートを中心とした、iPad 活用法を研究した授業展開	(2)iPad を活用した授業は展開できている。	A	(2)iPad を使って授業展開を行い、自己表現を高めることができた。
	(3)教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック	(3)1. 予備校・大学主催の研修会への積極的な参加 2. 教科への研修活動のフィードバック	(3)研修会に参加はしているが、教科へのフィードバックは出ていない。	A	(3)研修会の内容を共有できていた。また教員間同士のコミュニケーションによって教材内容をより深く理解することができた。
社 会 科	(1)授業の厳正化と社会科としての強化 (2)教科会の活性化 (3)入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）	(1)社会科の授業が好きになる工夫をする (2)授業見学会実施 (3)大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究	各自各科目、それぞれ相応の教材研究に励み、生徒の興味関心をひく教材や授業のやり方を ICT の利用も含めて模索している。 授業見学会は個別には達成しているが、教科会としてはできていないのが現状である。	B B B	授業に関しては各担当者がしっかりと研鑽を積み重ねつつ、授業を展開し、授業アンケートも評価が高く、生徒たちの反応も良い。 ただ、近年、入試に関しては、社会を使わず、公募制入試まで入試が終わり、特進など一部の生徒しか入試に使わない現状は否めない。歴史総合などの新カリキュラムの対応は徐々にできてきている。
	(4)新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究	(4)ICT の活用の在り方を研究していく。新教科(歴史総合や探究)への対応		A	
数 学 科	(1)授業の厳正化	(1)より深い教材研究と教材の共有	(1)達成できた。	A	(1)ICT 機器の利用や一部グループワークでの演習など工夫ができた。
	(2)数学力の向上	(2)コースの特性を見据えた指導計画と実践	(2)達成できた。	B	(2)大学入試への結果につながっていないところもあり課題は残る
	(3)教科会の活性化	(3)情報共有と議論の場の設定使用教材の再検討	(3)議論できたが、引き続き検討は必要である。	B	(3)実務レベルでの共有はできており、悩み等の共有も一定量出来た。
	(4)研修への参加	(4)アクティブラーニングや ICT 教育の研修参加カリキュラムの構成、評価に関する研修参加	(4)案内までで参加に至っていない。	C	(4)他の校務とのバランスが取れず参加に至っていない。
理 科	(1)指導力の向上	(1)自然観の養成につながる実験や観察の実践	(1)各担当者で進行中。	B	(1)各担当で取り組んだが、まだ改善の余地がある。
	(2)授業内容の充実	(2)ICT 機器を用いた授業	(2)積極的に活用。	A	(2)積極的に取り組んだ。
	(3)基礎学力の定着	(3)「やり直しノート」の作成	(3)実施。	B	(3)担当者間で差がある。
	(4)大学入試に対応できる学力の定着	(4)生徒に合わせた補講習・単元テストの実施	(4)補講習中心に実施。	B	(4)補講習を中心に実施した。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
英語科	(1)より良い授業内容にするための工夫	(1)ELSA や音声ツールの活用・英会話を通じて話す機会を増やす	(1)あまりできていない。	C	(1)ELSA の使用について、運用に手間がかかるため時間のロスになった。
	(2)より良い授業のための教材研究	(2)Team Teaching 授業での発表の機会の充実	(2)概ね達成できた。	B	(2)英会話や TT で話す機会を確保できた。
	(3)英会話や音声活動の充実	(3)各種研究会への参加	(3)あまりできていない。	C	(3)研究会に行く時間がなかった。
	(4)英検取得に向けた対策	(4)検定を意識した演習や小テストの実施	(4)概ね達成できた。	B	(4)英検や入試に向けての小テストは教科全体で実施できた。
保健体育科	(1)集団行動の様式の習得と実践（静と動）	(1)挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	(1)概ね達成できている。	A	(1)学年に応じて規律を重んじた集団行動が達成できた。
	(2)各種目の技術習得	(2)個人技能と集団技能	(2)概ね達成できている。	B	(2)種目にもよるが、ある程度の技能習得ができた。
	(3)運動することの必要性、大切さ	(3)生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	(3)概ね達成できている。	B	(3)座学などを通して運動理解を深めることができた。
	(4)ICTの導入	(4)iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく	(4)まだまだ進んでいない	C	(4)一部の種目において、iPad でフォームの確認を行った。
	(5)心肺蘇生法の習得	(5)胸骨圧迫・AED 使用方法	(5)達成できた	A	(5)真摯な態度で講習を実施することができた。
芸術科	【行事への協力、取り組み】				
	(1)聖徳書道展への協力	(1)書道展の運営サイドの体験をさせ、探究学習に紐づけていく	(1)実施前である。	C	(1)限られる授業数の中で、運営作業を実施することが難しかった。
	(2)芸能鑑賞等、教務部との連携。	(2)様々な作品を鑑賞させ、感性を磨く	(2)複数回実施中。	B	(2)さまざまな機材や教材を活用しながら、多くの作品を活用できた。
	【表現力を伸ばし、感性を磨く】				
	(3)表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。	(3)表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける	(3)複数回実施済。	B	(3)技術力、表現力に活かすべく、知識面の養成も十分実施できた。
	(4)校歌の指導	(4)校歌「月影」の指導	(4)未実施である。	C	(4)授業数少なく、実施が不十分だった。
	(5)演奏の基本技術の指導	(5)音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。音楽史の学習	(5)実施済。	A	(5)リコーダー、ギターの技術指導を十分実施し、ICT 教材を利用して音楽史も展開できた。
	(6)楷書、行書における用筆法の指導	(6)書道 楷書、行書における用筆法の指導。書道史の学習	(6)複数回実施中。	B	(6)用筆指導は十分だったが、書道史の授業展開が不十分だった。
	【評価・評定】				
	(7)評価、評定の方法について協議する	(7)観点別学習状況の中で「知識・技能」、「思考・判断力・表現」についての研究	(7)教科内で検討中。	B	(7)観点別学習の評価方法についての研究を深めることが出来た。
	【授業実施方法】				
	(8)授業の実施方法について教科内の連携	(8)教科会の活性化	(8)実施中。	A	(8)教科内で連携を行い、各授業の実施に活かすことが出来た。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
家庭科	(1)知識・技術の習得を目指す	(1)わかりやすい説明を心がけ、何 度も確認を行う	(1)取り組んでいる。	B	(1)考查の難易度と評価にばらつき がある。さらに精査が必要
	(2)自立に向けた意識改革を図る	(2)自己責任で行動できるように 促す	(2)解を促している。	B	(2)もう少し早い段階での意識づけ を行っていきたい。
	(3)時代や社会に対応する力を育 成する	(3)男女共同や自己の在り方につ いて考えさせる	(3)取り組んでいる。	C	(3)確認できるような取り組みがで きていないので、来年度検討す る。
	(4)報ツールの効果的な活用をす る	(4)iPad や新聞などでの情報収集 を促す	(4)利用している。	A	(4)授業や課題などで利用を促進す るように仕向けている。
	(5)他教科と連携した教材を検討 する	(5)家庭科の取り組みを周知させ、 協力や協働を提案する	(5)一部にしかできていな い。	B	(5)金融教育などでは社会科と連携 をとっている。
情報科	(1)より良い授業内容にするため の工夫	(1)様々な補助教材の活用	(3)については、現時点で は取り組めていない。 それ以外の項目につ いては、概ね取り組む ことができている。	B	(1)概ね達成できていると思わ れる。
	(2)より良い授業のための教材研 究	(2)プログラミング教育に関する 教材研究		B	(2)概ね達成できていると思わ れる。
	(3)情報科に関する情報収集	(3)研修会への積極的な参加		C	(3)研修会への参加は1回のみと なった。
	(4)入試科目への対応	(4)共通テストへの対策		B	(4)概ね達成できていると思わ れる。
宗教科	(1)校訓、学順の理解	(1)合掌、一枚起請文、十念の実践	(1)概ね実践できている。	B	(1)各クラスにより声の大きさは違 うが、概ね実践できました。
	(2)宗教行事の理解	(2)御忌式、校祖誕生会を通じて 生命の尊さ、相互理解を指導す る	(2)生命の樹などについて 指導できた。	A	(2)御忌式において、校長先生から も法話があり、生徒は理解を深 めることができました。
	(3)生命の尊さを考える	(3)アクティブラーニングの実践 生命の尊さ、生きることの大切 さを考えるニュース、ドラマを 視聴する	(3)実施できている。	A	(3)アクティブラーニングを通し て、生命の尊さ、生かされてい ることへの「感謝」を理解でき ました。
	(4)共生社会について考える	(4)タブレット、ロイロノートでの 意見課題提出	(4)実施できてない。	B	(4)少しずつであるが、ロイロノー トによる、意見、コメントの提 出ができました。
高一学年	(1)校訓・学順を意識した学年運営	(1)生徒・教員同士が相互に協力し 助け合える学年・クラス運営を 行う	(1)日常的に情報共有の機 会を設定した。	A	(1)日常的な情報交換により学年 団・担任団が運営をした。
	(2)英語・数学・国語の3教科を意 識した学力向上と学習習慣の 確立	(2)学力向上に向けた取り組み ・良き生活習慣の確立 ・総合は全国模試で偏差値45～ 50、特進は偏差値55以上を 目指す ・高1終了段階で全員が英検3級 以上の合格を目指す	(2)実施しているが、成果 についてはまだ顕著に は表れていない。	B	(2)各教科、各コースの特性を生か した取り組みを実施した。模試 結果や英検合格状況など平年並 みであった。
	(3)学年起案行事の充実	(3)生徒自らが企画・運営が出来る ような学年起案行事の設定	(3)各行事での実行委員会 の立ち上げや学年統一 での文化祭の出し物な ど成果が出ている。	A	(3)実行委員会を立ち上げ、各行事 を生徒たちが主体的に取り組む 活動を実行できた。
	(4)生徒個々の「自己実現」に向け た取り組み	(4)進路HRや二者懇談、学年集会 の充実	(4)適宜実施している。	B	(4)適宜実施はしているが、自己実 現に向けて、どこまで進路意識 が深まったかは計り知れない。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
高2学年	(1)校訓・学順を意識した生指導	(1)一人一人に寄り添った、親身な指導	(1)概ね達成できた。	A	(1)一人一人に寄り添った、親身な指導は担任団全員が意識して行うことが出来た。生徒の考えていることを尊重して間違いを正すことを徹底して行うことは出来ている。
	(2)家庭と学校との綿密な連携	(2)家庭と学校の綿密な連携	(2)概ね達成できた。	A	(2)保護者との連携は密に細かなことも共有して生徒指導に役立てることは出来ている。
	(3)学習習慣の確立	(3)高3に向けて対応できる下地作り	(3)概ね達成できた。	B	(3)なかなか学習習慣を確立させることは出来ていないと感じている。総合進学コースに定着させるのは難しかった。
	(4)担任団・学年団の連携	(4)学年担当者会議の実施、日常の中での生徒の情報交換	(4)概ね達成できた。	A	(4)日常の中で細かなことまで担任団と共有し合い、会話の中にも生徒が生徒のことが出てくるくらい意識高く連携をとって生徒を指導することは出来ている。 役割も上手く分担し、負担にならないようにお互いが埋めあう、素晴らしい担任団。学年団であった。
高3学年	(1)校訓「正思明行」・学順の実践	(1)参列者全員が感動の思い出に残る卒業式の実施	(1)達成する予定。	A	校訓「正思明行」の実践を柱に、家庭との綿密な連携を通じて生徒の学習習慣を確立し、第一志望合格に向けた進路指導を推進しました。教職員間の迅速な情報共有により、各重点目標は概ね達成できています。三年間を締めくくる集大成として、参列者全員の心に残る感動的な卒業式の挙行できたと考えています。
	(2)生徒・保護者・教員の意思疎通	(2)家庭と学校との綿密な連携	(2)概ね達成できた。	A	
	(3)第一志望合格に向けた進路指導	(3)大学入試を意識した毎日の家庭学習の習慣の確立	(3)概ね達成できた。	B	
	(4)担任団・各部署との連携	(4)学年担当者会議の実施と日常の会話による生徒の情報交換	(4)概ね達成できた。	A	
保健管理	(1)生徒の多様なニーズに伴い、保健室運営の充実を図る	(1)・的確な救急処置対応を行う ・心の問題を抱え込まない環境づくり	(1)4月から10月末まで処置数は、1255名で、多様なニーズに対応した。	B	(1)4月から3月末までの処置数は1839名で、内科・外科・その他精神的な主訴などの多様なニーズに対応した。
	(2)健康診断を生徒が積極的に受けるよう健康教育に関する資料を集積し、活用する	(2)・校内ネットワークを活用する ・教職員との情報の共有化を図る	(2)健康診断の結果、有所見受診率が2割を下回る。	C	(2)有所見者の受診率を、さらに高める必要がある。
	(3)一人ひとりを大切に健康相談を行う	(3)・傾聴を心がけ、適切な指導助言ができるよう自身の資質向上を図る	(3)心が脆弱で、人間関係の構築が難しい生徒が多い。カウンセラーの協力が必須。	B	(3)保健室内で受けた相談について、カウンセリングや医療機関につなぐことができた。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
人権教育	(1)学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成	(1)生徒の実態を考慮した教材の開発 ・SNS, インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する	(1)インターネット、SNSによるトラブル、アップロード、スマホ依存症の学習動画を学習して、意見アンケート記入を実践した。	B	(1)教材開発を進め、その成果も人権教育の研究会にて発表させていただいた。ただまだまだ研究を進めていく必要がある。
	(2)育てる人権教育の実践	(2)自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動)相手の立場、気持ちを理解する	(2)人権教育の趣旨に相應する内容を検討すべきであった。	B	(2)育てる観点に関しては、高三の学年講演会にて、多少の成果が出たと考える。
	(3)いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践	(3)生活アンケートを各学期の最後に実施する、差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践	(3)生活アンケートを基に、いじめ防止対策委員会を通じて、さまざまな意見、今後の対策を確認することができた。アンケート実施前後で問題が生じることもあり、直接結びつかないこともあった。	B	(3)今後は、変化していく様々な人権問題の教材を考えていく必要がある。
図書教育	(1)図書室利用者の促進	(1)イベントの開催や興味関心の高い本を充実させる	(1)実施している。	A	(1)おおむね達成。創意工夫がされ、来室者の興味関心が高まった。
	(2)読書の啓発	(2)刊の告知やポップなどの工夫を行う	(2)実施している。	A	(2)広報ポスターや図書だよりを定期的に発行できた。
	(3)委員会活動の活性化	(3)動を定着させ、意識を高める企画を提案する	(3)定着はまだしていないが、意欲的な生徒は増えた。	B	(3)行事やクラブ活動の合間になり、継続的な活動が難しかった。
	(4)蔵書管理の徹底	(4)貸出や返却状況を常に把握し、登録内容の見直しをする	(4)実施している。	A	(4)長期の延滞が増えたため、督促までの期間を短縮したところ、改善された。
広報	(1)ホームページの改良	(1)委託業者と連携を図り、利便性の高い状態を維持する	(1)業者と打合せを進めながら、改良に努めている。	B	(1)常に委託業者と打合せをおこない他校分析をおこなった。
	(2)ブログの充実	(2)日常的に学校の様子を配信する	(2)ブログの日常的な配信は出来ていない現状である。	C	(2)ブログの日常的な配信はできなかった。
	(3)インスタグラムの活用	(3)時代感覚に敏感に対応する	(3)インスタは積極的に運用できている。	B	(3)インスタに関しては、頻繁に配信をおこなうことができた。
	(4)広報費用の精査	(4)昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定する。	(4)紙媒体のものは、極力控えるようにしている。	A	(4)費用対効果の検討をおこない、実施する物の精査をおこなった。

部署	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	中間評価	自己評価と分析	
事務	(1)コミュニケーションの充実	(1)事務部門はもとより、教務部門と外部をスムーズにつなげるべく学内で情報共有を図る。	(1)こちらから積極的に情報を聞き取りに行く姿勢を大切にしており、概ねできている。	A	(1)周囲の声に耳を傾け細やかに対応することが出来ていると思われる。
	(2)企画・運営に関する事務	(2)様々な課題に対し、多面的な観点を踏まえながら、改善策を提案・実現していく。	(2)概ね出来ているが、更なる質の向上を目指したい。	B	(2)課題の拾い上げに関してもさらにアンテナを広げて問題提起から解決に向けて積極的に役割を果たしていきたい。
	(3)校内・教育環境のさらなる整備	(3)生徒及び教職員がより安全かつ快適に教育活動に専念できるように進めていく。	(3)厳しい予算ではあるが、一歩ずつ着実に進めている途中である。	B	(3)教室の床の張替え・一部廊下の改修・エアコンの取替等を行った。また、生徒数の増加にともない使用する教室も増えたため、まだ着手できていない部分についても順次取り組んでいく。
	(4)適切な事務処理及び質の向上	(4)相手の立場に立ち、親身に接することを心がけ、安心できる事務室としての役割を果たす。	(4)さらに相談しやすい環境を目指したい。	B	(4)相手の立場に立ち、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たしてきた。今後も教職員や生徒・保護者の意見を聞きながら、きめ細かい事務処理を行っていききたい。

5 授業評価アンケートおよび保護者アンケートの結果と分析

①授業アンケート

1. 実施時期
- 令和7年11月14日（金）に実施
2. 対象学年
- 全学年
3. グラフについて

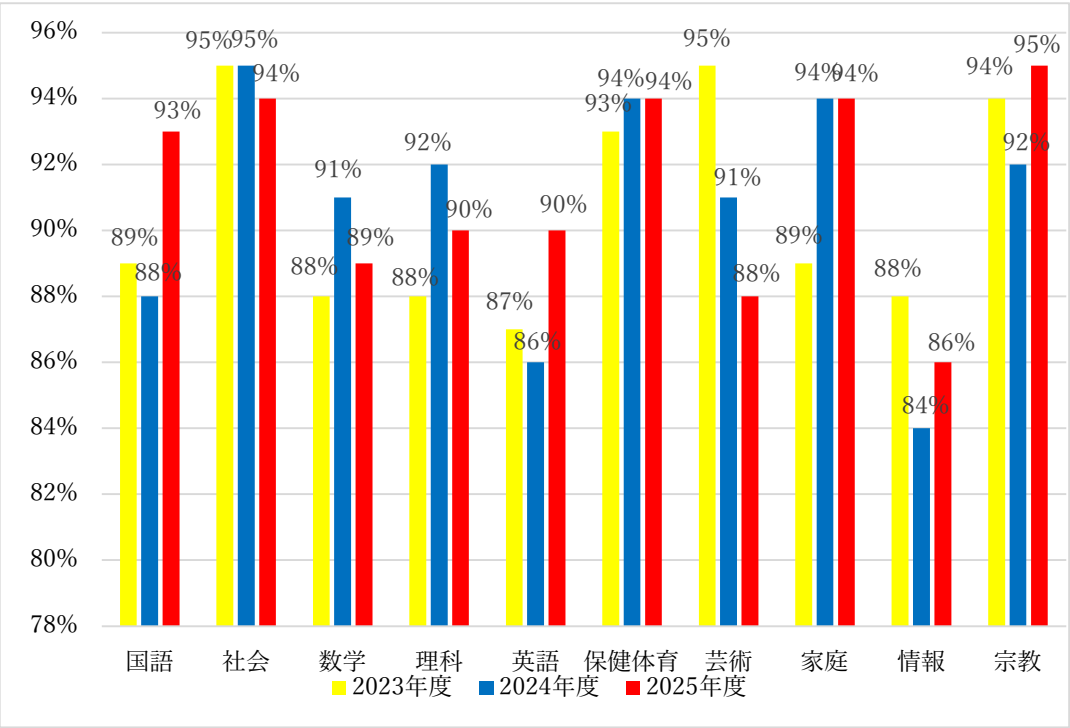
各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の4段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいる。

- ・教科別肯定的評価グラフ
- 各教科に所属している教員の肯定的評価の平均の割合を示している。
- ・質問別肯定的評価グラフ
- 質問別に全教員の肯定的評価の平均の割合を示している。

- 「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねわり等をしない）を守っていますか？
- 「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？
- 「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？
- 「情報収集」……この授業に関する課題や関心事項についてインターネットや図書等を活用して情報収集していますか？
- 「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？
- 「板書等」……先生の黒板や ICT 機器・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？
- 「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？
- 「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？
- 「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？
- 「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？
- 「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？
- 「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？
- 「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？
- 「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？
- 「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか。
- 「学力向上実感」（＊）…あなたは当該科目の学力（実技教科は「知識・技能」）が向上したと感じますか？
- 「モチベーション」（＊）…あなたは当該科目の学習に前向きに取り組めましたか？
- 「興味関心向上実感」（＊）…あなたは当該科目への興味、関心が向上しましたか？
- 「学習の自己調整実感」（＊）…自分なりに見通しを持ったり、工夫したりしながら当該科目の学習に取り組んでいますか？

※この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」・「情報収集」は生徒の自己評価である。

授業アンケート 3 年間の結果比較（教科別肯定的評価グラフ）



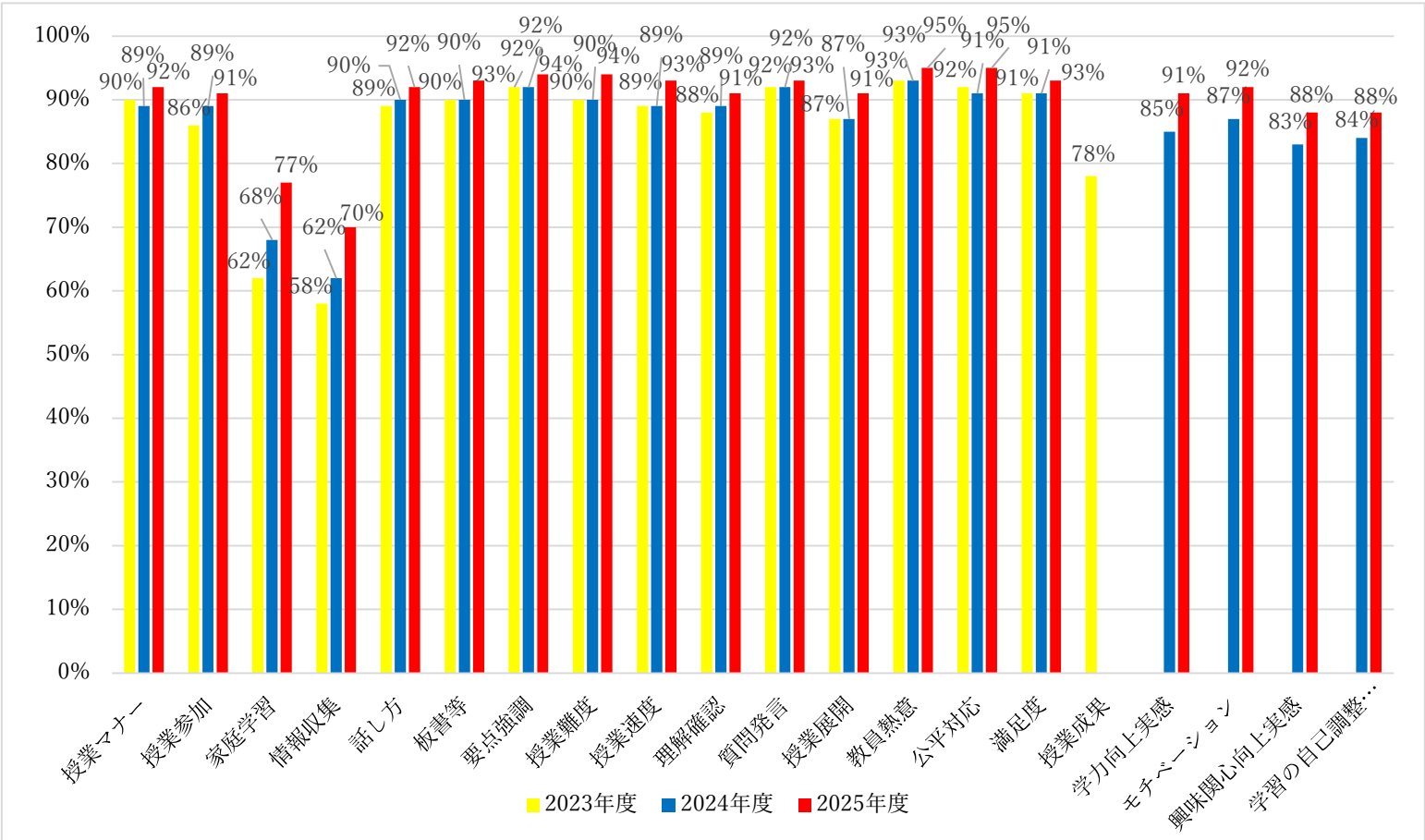
【分 析】

約 6 ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように、毎年実施している。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように活用したい。

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも 80 % 以上になることを目標としている。今年度も全教科目標である 80 % 以上をクリアできているだけでなく、昨年度達することができていなかった全教科 85 % 以上もクリアできている。国語科と英語科が大きく上昇しており、昨年までの下降傾向からかなりの工夫と改善が図られた結果と言える。下降した教科においては、引き続き注意が必要と考えられる。過去 3 年間のグラフを比較すると、全体としてはもともとかなり高い評価を受けているので、1 ～ 2 ポイント下降することは容易にあり得るが、下降したという事実を軽く受け止めることなく、その原因をしっかりと考え次年度では必ず向上するよう期待したい。

授業アンケート 3 年間の結果比較（質問別肯定的評価グラフ）



【分 析】

質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度から、それまで「授業成果」として質問していた項目を４つに細分化し、生徒が何について答えればよいかを明確にした。その結果、一昨年度までの「授業成果」より肯定的評価が上昇している（答えやすくなったと考えられる）。継続的な課題である「家庭学習」が連続しての上昇傾向にあり（自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるため、４０％以上が目安になるが、今年度は７７％）、スタディーサプりに代表される ICT の活用や課題などの工夫が実を結びつつあると考えられる。

他に、生徒の満足度を左右する「授業展開」の評価については、他の項目に比べて毎年低い傾向にあったが、「理解確認」や「授業参加」を促すなどの工夫が功を奏し、他の項目と比べても同程度のレベルまで改善した。また、今年度も全体として見れば、各項目で昨年度を上回る結果となっており、授業を通じて生徒とよい関係を築くことができていると考えられ、評価できるポイントである。ただ、高い結果が出続けているということに甘んじることなく、各教科会等で話し合い工夫を続けることが大切である。

②保護者アンケート

- １．実施時期 令和７年１０月２７日（月）から３週間
- ２．対 象 全学年の保護者
- ３．グラフについて

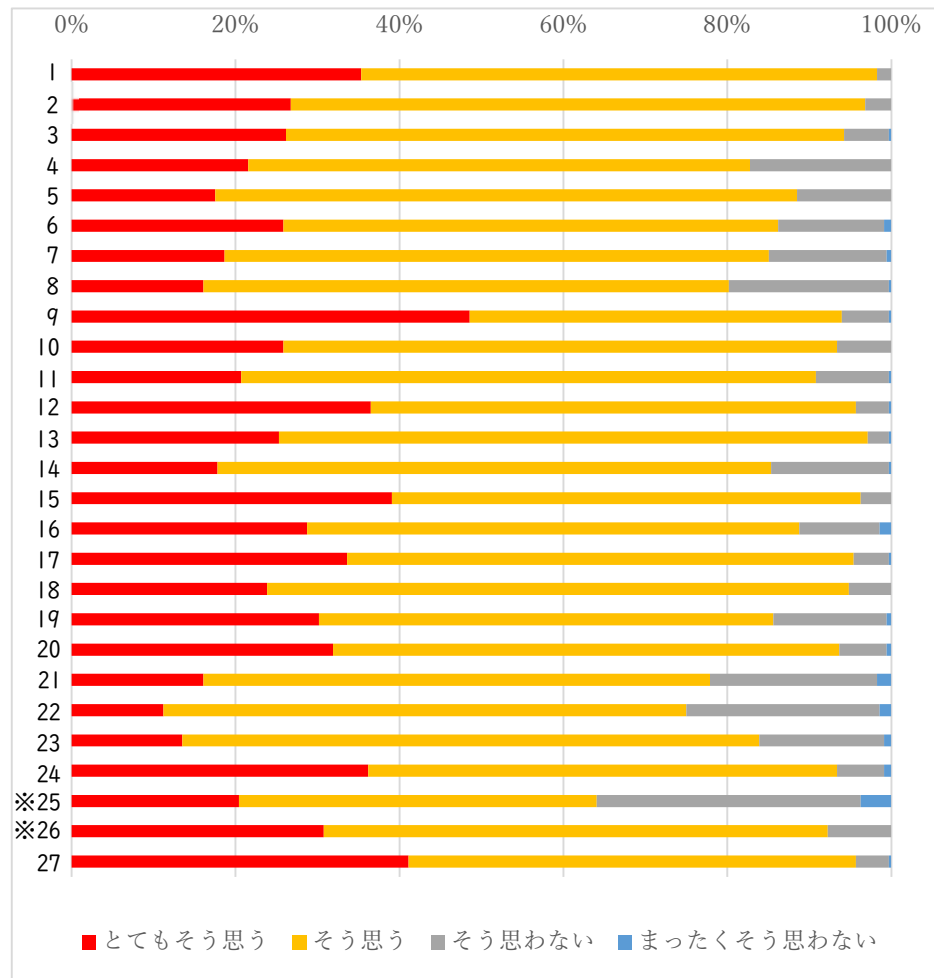
授業アンケート同様、各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の４段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価としている。

- １．「校訓・学順」を柱とする本校の教育理念が教育活動の中で大切にされていると思いますか。
- ２．仏教の精神に基づいた教育が行われていると思いますか。
- ３．特進選抜/特進/総合進学コースの特色が教育に活かされていると思いますか。
- ４．学習習慣が身に着く授業が行われていると思いますか。
- ５．授業をわかりやすくするため、教え方を工夫している教員が多いと思いますか。
- ６．教員は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか。
- ７．授業の進み方が適切で、授業につまずかないように配慮されていると思いますか。
- ８．授業や課外学習などの学校の学習で、大学受験に対応できると思いますか。
- ９．担任が親身になって個別的な相談に対応してくれていると思いますか。
- １０．基本的生活習慣が身に付く生活指導が行われていると思いますか。
- １１．よい友人関係を築けるための指導や努力を教員がしていると思いますか。
- １２．現在の担任の指導に満足していますか。
- １３．現在の学年の運営に満足していますか。
- １４．ホームルームの時間帯に将来の進路や生き方について考える機会があると思いますか。
- １５．体育大会や上宮祭等の、学校主催の行事が充実していると思いますか。
- １６．部活動が活発で内容が充実していると思いますか。
- １７．進路および教育活動に関する保護者説明会や懇談が充実していると思いますか。
- １８．ホームページの内容は十分であり、タイミングよく適切な情報が提供されていると思いますか。
- １９．学校からの通信（さくら連絡網）や文書などで学校の様子が家庭によく伝わっていると思いますか。
- ２０．教員が家庭との連絡・連携を大切にしていると思いますか。
- ２１．学校施設が整備され、充実していると思いますか。
- ２２．防犯・防災、安全管理への対策が整っていると思いますか。
- ２３．学校は病気予防・保健衛生の対策をしっかりとしていると思いますか。
- ２４．お子様の学校生活が楽しく充実していると思いますか。
- ２５．お子様は、期待している通りの学力的成長をしていると思いますか。
- ２６．お子様は、学校生活を通して人間的に成長していると思いますか。
- ２７．本校を選んだことに満足していますか。

自由記述

- ①学業面（放課後や長期休暇中の補習・講習に関すること、進路実現に向けた学習指導）
- ②学校とのコミュニケーション（お子様、またはご家庭への情報発信、生徒と教員の距離の近さ）
- ③施設面（設備充実面での要望、スクールバス運行面での要望など）
- ④進路指導（将来の夢ややりたいこと（仕事）を見つけるための機会創出など）
- ⑤その他（クラブ活動の運営に関することなど）

保護者アンケート集計結果



※保護者から見た生徒の成長実感
(満足度に直結すると考えられる)
を把握する意味で、令和7年度から
2つの項目を追加した。

【分 析】

まず、本校の教育理念や仏教の教えに基づいた教育の実践に対して、満足していただいている方が多いことはたいへんありがたい。生徒一人ひとりの成長を目指した担任指導をはじめ、保護者説明会や学校行事などについても一定の評価をいただいた。

一方で、生徒の学力的成長については相対的に評価が低く、授業アンケートにおける生徒が感じている「学力向上実感」とは異なる結果となっている。保護者が求める学力的成長を実現するべく、教員全員が常に日々アップデートし続けなければならない。この結果を真摯に見つめ直し、生徒の学力向上、ひいては進路実現に向け、生徒の思考力・判断力・表現力を錬磨する授業法の研鑽等について、重点的に検討を加えて行くことが必要である。また、本校の特徴の一つである生徒と教員の距離の近さについて評価をいただいた一方で、学校からの情報発信をより良くしてほしいとのご意見もいただいた。ICT 端末を有効に活用しながら、生徒の様子や学校の状況について適切に発信できるようにも務めて行くことが望まれる。

このアンケート結果と自由記述でいただいた前向きなご意見を参考にし、私学ならではの教育、また宗門学校としての教育を基盤に置き、本校をよりすばらしい学校にしていく努力を続けなければならない。

6 学校評価の総括

校訓「正思明行」を教育の柱とし、各学年の実情に応じた丁寧な指導を通して生徒の理解と生徒・教員間の信頼関係を築くことに努めた。また、各教科において創意工夫を凝らした授業を行い、生徒の気づきや発見を大事にしながら、学ぶことの楽しさを実感できるように心がけた。そういった取り組みを続ける中で一定の成果を上げるとともに、探究活動や図書館活動、生徒主体の取り組みが活発になり、生徒が自ら考え行動する力を育む教育を進めることができた。

授業アンケートの結果から、「家庭学習」並びに「情報収集」の項目において前年までに比べ大幅に伸びてきたことが窺える。その結果が「学力向上実感」に比例していると考えられ、ITC 端末活用を前提とした各教科の工夫が活きてきているといえる。一方、保護者アンケートの結果から、「防犯・防災、安全管理への対策」の項目については、保護者の不安が浮き彫りになっており、今後の改善を急がなければならない。

7 学校関係者評価

①令和7年度自己評価結果について

令和7年度学校関係者評価は、昨年に引き続き学校評価関係者が一堂に会して評価を行う従来の方法で実施することができた。

今回使用した資料は以下の通りである。

1. 学校評価に関する規定
2. 『学校評価』について(職員用資料)
3. 令和7年度 学校計画と学校評価

建学の精神に基づく教育目標に対して、3～6年間の中期的目標を設定した。その目標に向けて各部署それぞれが重点目標を作成し、実施できた内容と課題を10月の中間報告および年度末の報告において評価した。これらのまとめを上記3の報告書に掲載し、その内容が報告された。結果はあくまでも自己評価であるため、部署によっては若干の評価基準の差異が生じている面も存在する。

また、毎年全生徒を対象に実施している授業アンケートに加えて、3年に一度の保護者アンケートの内容も報告され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。結果については今年度もすべての教科で目標の80%以上をクリアできており、何れの教科も大きく下降することなく今後も安定して80%を超えることが期待できる。生徒の自主性に繋がる項目については大幅な改善が認められた。ここで出た結果は、今後、担当者個人や教科会等で検討、活用されるものである。

②令和7年度 自己評価結果についての評価

各部署の「重点目標」と「自己評価と分析」に関しては、各部署ともに適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間で連携をとりその都度うまく対応しているようだ。ただ、部署によっては継続的に改善すべき課題、検討中の課題、時代の流れに合わせて新たに考慮すべき課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をしてより良い学校にしてみたい。ICTの活用が進んだことで、学校・保護者・生徒間の連絡も円滑に行える環境が整ってきていることは素晴らしいと言える。

教務部では、各部署と連携をとり、教員間の協力の下で行事を円滑に進めることができている点や実務面で出た課題に対して改善を図ろうとしている点は評価できる。また、不登校生徒に寄り添うためのICT機器を用いたオンライン授業(課題学習)では一定の成果が得られている。

生徒指導部では、特に生徒会が主体的に活動していると評価できる。また、カウンセリングを中心とした教育相談に加え、スクールロイヤー制度の導入によって、様々な問題の防止や解決につながるのではないだろうか。

進路指導部では、スタディサブリの活用や探究活動の充実が評価された。探究活動に関する専門チームが出前授業(中学校への出張授業)でも活躍していることが紹介された。

入試対策部では、これまでの地道な活動が評価され、過去最大の人数の保護者・受験生に来校していただけた。結果、200人以上の入学者を迎え入れることができた。

各教科、各学年関係においては、特に英検対策や小論文対策について、さらなる工夫と充実が可能であると考えられる。授業に加え、放課後の補講習などうまく活用することで、英検や大学入試の合格数を増やしていくことが可能となるであろう。

「授業アンケート」「保護者アンケート」に関しては、先生の熱意や公平な対応、生徒の満足度など、ほとんどの項目で毎年高い水準を維持していることは評価できる。一方、その熱意や公平な対応の項目で、満足していない生徒や保護者が一定数いることをしっかりと認識すべきである。また、学校施設や防犯・防災、安全管理への対策は、やや満足度が低い。エアコンの設置など、生徒・保護者の要望が強いことから、改善していつもらいたい。

以上の他に、人権教育、保健室、図書室、広報、事務の各部署の目標と評価について、一定程度の理解が得られた。

保護者、同窓会からたいへん前向きで貴重なご意見をいただくことができ、有意義な話し合いの場となった。よい評価をいただいた部分は自信としてより磨きをかけ、ご指摘を受けた部分については謙虚に受け止め改善していく努力を重ねていきたい。